暴力団に屈しない
熊本県暴力追放県民大会 in 八代

▲疋田弁護士による講演

11月10日、鏡文化センターで第28回熊本県暴力追放県民大会が行われました。

これは暴力団など反社会的勢力のあらゆる暴力を追放し、明るく住みよい熊本県の実現を目指すものです。

大会では、暴力団を恐れない、暴力団に金を出さない、暴力団を利用しない、暴力団と交際しないの4つのスローガンからなっている「暴力団追放3ない運動＋1（プラスワン）」が宣言され、参加者多数の同意で採択されました。

また、基調講演では「消滅する暴力団」という演題で疋田（ひきた）淳吉（きよし）弁護士による講話や肥後にわか「劇団U」による「私は負けないパートⅢ」と題した演劇もあり、参加者は暴力団に屈しない決意を新たにしました。

災害時に役立てて
「特設公衆電話の設置・利用に関する協定」締結調印式

▲左から前田仁支店長、中村博生市長

11月14日、本市と西日本電信電話熊本支店との間で「特設公衆電話の設置・利用に関する協定」が締結され、市役所鏡支所で調印式が行われました。

特設公衆電話とは、災害発生時に通信手段の確保のために避難者などが無料で使用することができる発信専用の優先電話機です。今回の協定によって、市が指定する避難所41か所に45回線が設置されます。

中村博生市長は「今回の協定によって、避難所の質や防災面の向上に繋がると思います。より一層、災害に強いまちづくりを進めていきます」と述べ、前田仁（ひとし）支店長は「八代市とともに安心安全なまちづくりに取り組んでいきたいです」と話しました。

八代の宝から世界の宝へ
ユネスコ無形文化遺産八代妙見祭

▲飾馬が砥崎の河原を力強く駆け抜けました

11月22日に前夜祭である「御夜」、23日に「お上り」が行われました。昨年、八代妙見祭の神幸行事がユネスコ無形文化遺産に登録されたこともあり、両日とも多くの観客でにぎわいました。

御夜の会場となった本町アーケードには、笠鉾や亀蛇などが展示され、各奉納団体の陣が立ち並びました。

妙見祭のメイン行事である「お上り」は塩屋八幡宮を出発し、八代神社までの約6kmを神幸行列が練り歩き、時代絵巻さながらでした。また、砥崎の河原には多くの観客が詰めかけ、神馬や飾馬、亀蛇が水しぶきをあげながら駆け抜けると会場から大歓声があがりました。

※八代妙見祭フォトコンテスト作品展は、1月14日までイオン八代店で開催しています。

八代港国際クルーズ拠点整備事業
耐震強化岸壁着工式

▲光嶺保育園の園児と一緒に工事開始のスイッチを押す関係者

11月25日、八代港外港地区で「八代港国際クルーズ拠点整備事業～耐震強化岸壁着工式～」が行われました。

これは、国際旅客拠点形成港湾の指定を受け、九州中部の大型クルーズ船の受入拠点を目指し、八代港外港地区において、国、県、ロイヤル・カリビアン・クルーズ社による拠点形成を行うものです。世界最大級の22万トン級クルーズ船も受け入れが可能になり、県内初の耐震機能を有する岸壁として災害時には救援物資などの補給拠点にもなります。

式典には国や県などの関係者約100人が参加。蒲島郁夫知事が「八代港を世界で最も魅力的な港にしたい。国や県の発展に結びつくことを期待する」とあいさつし、着工を祝いました。

身近な川について考える
小学生による1日河川パトロール

▲護岸の危険箇所がないかチェックしました

11月16日、鏡西部小学校の3～6年生19人が1日河川巡視員に任命され、氷川の上流から下流まで河川パトロールを行いました。

これは、河川を常に美しく保ち、正しく安全に使用することの大切さを子どもたちに伝えることを目的に県が主催しています。

この日は県職員などから河川についての説明があり、立神峡（氷川町）でゴミの撤去や護岸の状態確認と水質検査を行いました。また、氷川ダムの監査廊や操作室、八代港のコンテナターミナルを見学し、ダムの機能や役割、八代港について知識を深めました。

大きい芋がたくさん採れたよ
保育園児の芋掘り体験

▲夢中で芋を掘る園児たち

11月15日、市内18保育園の園児約350人がYKAP九州製造所の独身寮敷地内で芋掘り体験を行いました。

社員のかけ声で芋掘りが開始。園児たちはスコップや手を上手に使って芋を掘り起こすと、「芋採れた」「大きい」と歓声を上げて喜びました。中には、重さ1・5kgの大物もあり、掘り出すのに悪戦苦闘する場面もありました。収穫後は重さを量り、各園で一番重い芋を掘った園児に「大物賞」の賞状が贈られました。受賞した二見保育園の岩崎愛希くんは「大きい芋が採れてうれしかった」と笑顔で話しました。

樹木がすっきりとした姿に
八代市造園防災協議会が公園樹木剪定

▲木の剪定を行う参加者

11月11日、高島公園で八代市造園防災協議会（市内造園業者12社）の会員12人が樹木の剪定をボランティアで行いました。

近年は台風などの強風や突風で樹木の枝が折れ、落下することで人や物に被害が出ているため、同協議会では事故を未然に防ぎ、安全、安心な緑地のある空間を目指した防災活動を行っているものです。

参加者はチェーンソーや高所作業車を使って広い範囲の樹木を剪定しました。作業が終わると、公園がすっきりとし、過ごしやすい空間となりました。

もしものときに
二見校区住民参加型防災訓練

▲水消火器を使った消火訓練

11月26日、二見小学校で二見校区住民参加型防災訓練が開催されました。

これは、地域全体で災害に立ち向かう地域防災力を高め、住民相互が共に支え合う関係を構築することを目的としています。

初期消火訓練や救命救急訓練、応急手当訓練などが行われ、消防職員の指導のもと、参加者が主体となって訓練に取り組みました。訓練に参加した赤星ツギコさん（二見下野町）は「救命救急の大切さを実感しました。AEDの仕組みや心臓マッサージが大事だということを学べて良かったです」と話しました。

森を守り育てる
八代地域植樹活動

▲緑の少年団による植樹活動

11月26日、立神峡里地公園で八代地域植樹活動が開催され、八代管内の緑の少年団や関係者約50人が参加して、ハナミズキやドウダンツツジなど約50本を植樹しました。

式典では、緑の少年団を代表して吉海美幸さんと坂口愛喜さんが「私たちみんなで、森を大切に守り、育てていきたいと思います」と誓いの言葉を述べました。また、この日は立神峡里山フェスタも開催され、椎茸のコマ打ち体験や自然観察などを楽しみました。

吉村夏希さん（太田郷小4年）は「植樹したツツジの花を見に来たいです」と話しました。

八代のまちづくりを考える
協働のまちづくり市民フォーラム

▲八代市協働のまちづくり推進条例検討委員会によるテーマトーク

11月19日、やつしろハーモニーホールで「協働のまちづくり市民フォーラム」が開催され、約400人の市民が参加しました。

基調講演は、「八代市の協働のまちづくりのルールとは」と題し、熊本県立大学准教授の澤田道夫さんが協働のまちづくりを進めるためにはルールが必要で、元気な高齢者の力を活用することが大事だと話しました。また、特別講演として、元宮崎県知事の東国原英夫さんが「みんなが主役のまちにせんばいかん」と題して、芸人や県知事時代の体験談をユーモアたっぷりに話すと、会場は笑いに包まれました。

災害時の備えに
防災向けプロパンガス発電機受贈式

▲八代市プロパンガス協同組合の皆さん

11月28日、八代市プロパンガス協同組合の前田光洋代表理事らが市役所鏡支所を訪れ、防災向けプロパンガス発電機1台を寄贈しました。

プロパンガスは、都市ガスや系統電力に比べ、早期の復旧が可能なエネルギーです。今回寄贈された発電機は、家庭用のプロパンガスに接続して利用できるもので、西片町団地集会所に設置し、災害発生時における早急な応急対応に役立てます。

中村博生市長は「災害時にプロパンガスを利用して電気を使えることは、大変力強く感じます。有効に活用します」とお礼を述べました。

100歳おめでとうございます

高橋　寛さん
（古閑下町）
大正６年12月３日生

若い頃は製紙会社の山林部に勤務し、九州の山はほとんど歩いたという寛さん。趣味は魚釣りで、定年後は友人の船でよく釣りに行っていたそうです。日頃は、庭づくりや花を育てることを楽しんでいます。

長寿の秘訣は「何でも食べること」。

前田　キヱさん
（東陽町）
大正６年12月１日生

眼鏡なしで新聞を読むことが日課のキヱさん。日常生活では洗濯物を畳むのを手伝い、自分のものは自分で部屋に持って行くなど、とてもしっかりしています。

長寿の秘訣は「好き嫌いなく何でも食べ、適度な運動をすること」。

福田　重之さん
（鏡町）
大正６年11月28日生

毎日１００m程歩いている重之さん。趣味はカラオケで演歌をよく歌っています。また、読書も好きで歴史や戦記の本を読んでいるそうです。

長寿の秘訣は「適度な運動と薄味の食事や黒酢を飲むなど健康的な食生活をすること」。

晩白柚の香りを楽しんで
日奈久温泉　晩白柚風呂

▲晩白柚風呂を楽しむ参加者

晩白柚の収穫が最盛期を迎え、日奈久温泉では湯船に晩白柚を浮かべる晩白柚風呂が12月９日から１月末日まで、温泉旅館の11旅館と日奈久温泉センター「ばんぺい湯」で開催されます。（一部を除く）

12月８日には、地元住民の皆さんによる報道関係者向けのＰＲ用撮影会が日奈久温泉旅館金波楼で行われ、参加者は晩白柚を抱きしめたり、爽やかな柑橘系の香りを楽しんだりしました。

日奈久温泉旅館組合の松本啓佑組合長は、「晩白柚の香りと日奈久温泉を多くの人に知ってもらいたい」と意気込みました。

みんなで詠みつないだ大作
第６回やつしろ連歌会

▲句を考える参加者

12月２日、博物館で第６回やつしろ連歌会が行われ、約40人の参加者が連歌を楽しみました。

全体を取り仕切る宗匠は尾崎千佳さん（山口大学准教授）、ルールチェック係の執筆は竹島一希さん（熊本大学准教授）が務めました。参加者からたくさんの句が出され宗匠と執筆が迷いながらも一句ずつ選び、句を詠みつなぐと全44句を詠み連ねる世吉連歌が完成しました。

最も優れた句を詠んだ人に贈られるＭＶＰに輝いた國部真貴子さん（熊本市）は「自分が詠んだ句を評価してもらい、光栄です。また来年も参加したいです」と話しました。

緑の力で快適な空間に
やつしろ緑のカーテンコンテスト表彰式

▲受賞者の皆さん

11月29日、市役所鏡支所で平成29年度やつしろ緑のカーテンコンテスト表彰式が行われ、市民部門３人、学校部門２校、団体部門２団体が表彰を受けました。

今回の表彰で市民部門の最優秀賞に選ばれたのは、馬淵文夫さん（坂本町）。ゴーヤとアサガオで緑のカーテンを作り、つるを誘引するために竹を支柱として利用したり、水やりに風呂の残り水や米のとぎ汁を活用した点などが高い評価を得ました。

学校部門では坂本中学校、団体部門ではＹＫＡＰ九州製造所が最優秀賞に選ばれました。